

研究主題 運動の知識や技能の習得を図る保健体育科学習指導の在り方
— 中学校第3学年「サッカー」におけるゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料の活用を通して —

*****中学校 教諭 中村 宏

研究の概要及び索引語

保健体育科の学習指導においては、生涯を通じて運動に親しむ基礎となる運動の知識や技能を習得させることが必要である。本研究では、中学校第3学年「サッカー」におけるゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料の活用を通して、運動の知識や技能の習得を図る保健体育科学習指導の在り方を追究した。

索引語： 中学校，保健体育，運動の知識や技能，サッカー，技能ポイント

1 主題設定の理由

今日、体育・保健体育科では、生涯を通じて運動に親しむ基礎となる運動の知識や技能の習得が課題とされている。特に、中学校段階では、マイスポーツの獲得を目指し、運動の知識や技能を習得することが求められている。中学校学習指導要領解説保健体育編（平成20年9月）（以下「解説」という。）では、第3学年の体育分野の目標について、「運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。」と示されている。また、解説の内容E「球技」におけるゴール型の目標では、「ゴール前への侵入などから攻防を展開すること」が求められている。これらのことから、ゴール前へのパスや走り込む動きを理解し、技能を身に付けて活用する必要があると考える。

本校におけるこれまでのサッカーの指導では、動き方をまとめた学習カードを提示し、繰り返し練習することで、知識や技能の習得を目指してきた。しかし、球技に関する意識調査（平成24年9月27日実施，第3学年*人）を行ったところ、ゴール前へのパスについてうまくできないと答えた生徒が*人であった。さらに、走り込む動きについても、うまくできないと答えた生徒が*人であった。また、教師の観察から、ボール操作が未熟なためゴール前へのパスができない生徒や、相手に守られゴール前へ走り込む適切なコース取りができない生徒が見受けられた。このような実態から、ゴール前へのパスの仕方と走り込む動き方の理解や、ゴール前へのパスや走り込む動きの習得が課題であることが明らかとなった。その原因として、動きを視覚的に捉えて、技能の向上に生かす学習資料の活用が足りなかったと考えられる。また、ゴール前の攻防を練習してゲームに生かす活動も不十分であった。

そこで、本研究では、中学校第3学年「サッカー」において、ゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料を活用することで、運動の知識

や技能の習得を図ることができるのではないかと考えた。まず、学習の導入として、技能ポイント資料を活用して、ゴール前へのパスや走り込む動きを理解させる。次に、技能ポイント資料から、生徒の実態に応じた場面を取り出して練習に取り組みせ、ゲームに生かす。さらに、技能ポイントの視点で評価し、振り返らせることで、動きの改善につなげ、次なる課題を明確にさせる。このように、ゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料を活用することで、運動の知識や技能の習得を図ることができるのではないかと考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第3学年「サッカー」におけるゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料の活用を通して、運動の知識や技能の習得を図る保健体育科学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

中学校第3学年「サッカー」において、ゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料を活用することで、ゴール前へのパスや走り込む動きを理解して、動きを身に付け、ゲームで活用することができ、運動の知識や技能の習得を図ることができるであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 運動の知識や技能について

解説では、中央教育審議会（平成20年1月）の答申を受け、中学校保健体育科の改善の基本方針の中で、知識とは、「言葉や文章など明確な形で表出することが可能な形式知だけでなく、勘や直観、経験に基づく知恵などの暗黙知を含む概念であり、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものである。」と、知識の重要性について示されている。また解説の体育分野の内容では、技能について、「各領域における技能や攻防の様相、動きの様相」と示され、基本的な技能や動きを身に付け、攻防や動きの様相を高めることが求められている。これらのことを踏まえ、本研究では運動の知識や技能を図1のように捉えた。

知識	
形式知	言葉や文章など
暗黙知	勘や直観、経験に基づく知恵など
技能	
固有の技能や動き等	
技能や攻防の様相、動きの様相	

図1 運動の知識や技能の捉え方

イ ゴール前へのパスや走り込む動きについて

解説の内容E「球技」における第3学年の目標では、第1学年及び第2学年の、基本的な技能の習得をねらいとした学習を受けて、「作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする」ことが求められている。また、ゴール型の目標には、「安定したボール操作と空間を作り出すな

どの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開すること。」と、ボール操作とボールを持たないときの動きを習得する意義について示されている。さらに、ゴール型の内容には、「仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだしたりして攻防を展開できるようにする。」と示されている。これらのことから、ゴール型の学習では、ゴール前へのパスや走り込む動きを習得することが必要であると考えた。本研究では、体育分野とゴール型の目標を整理して図2のように捉えた。

体育分野		
学年	第1・2学年	第3学年
目標	知識や技能を身に付ける	知識や技能を高める
系統性	知識や技能を習得する	
球技「ゴール型」		
学年	第1・2学年	第3学年
目標	基本的な技能 ボール操作 空間に走り込む動き	作戦に応じた技能 安定したボール操作 空間を作りだす動き
系統性	パスや走り込む動き	

図2 体育分野と球技「ゴール型」の目標

ウ 運動の知識や技能の習得を図る過程について

サッカーにおける運動の知識や技能の習得を図る過程を図3のように考えた。まずゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント場面シートを活用して動き方を理解させる。次に、技能ポイント場面シートから、生徒の実態に応じた場面を取り出し、自作ビデオを活用して繰り返し練習に取り組みさせる。さらに、ゲームではチーム作戦ボードやペア分析カードを活用して技能ポイントの視点で評価し、動きの改善につなげる。最後に、技能ポイント振り返りカードを活用して、次なる課題を明確に持たせる。このように、技能ポイント資料の活用を通して、運動の知識や技能の習得を図る。

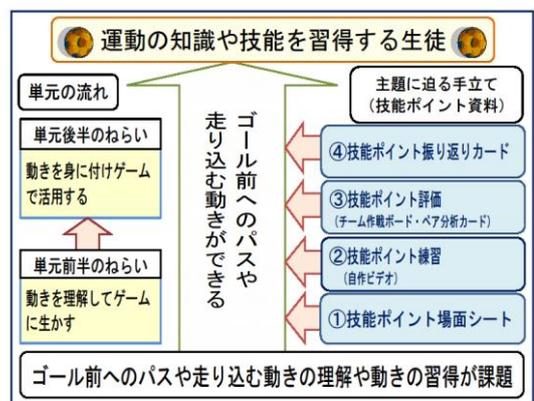


図3 運動の知識や技能の習得を図る過程

エ 運動の知識や技能を習得した生徒の姿

運動の知識や技能を習得した生徒の姿を表1のように捉えた。技能ポイント資料の活用を通して、ゴール前へのパスや走り込む動きを理解して、動きを身に付け、ゲームで活用することで、運動の知識や技能の習得を図る。

表1 運動の知識や技能を習得した生徒の姿

○サッカーにおけるゴール前へのパスや走り込む動きを理解して、動きを身に付け、ゲームで活用することができる生徒

オ 技能ポイントについて

解説の内容E「球技」における第3学年の内容には、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きについて、動きの例が示されている。それらを踏まえ、シュートやパス、ドリブルなどの固有の技能や、仲間と連携した攻防の様相を技能ポイントと捉える。また、ゴール型の技能ポイントの課題として、ゴール前の攻防の場面を取り出して設定する。特に、本研究では、サッカーにおけるゴール前へのパスや走り込む動きを理解して、動きを身に付け、ゲームで活用するために必要な動きのコツを技能ポイントと捉え、運動の知識や技能の習得を図る。

(2) 主題に迫るために

ア 知識や技能に関する生徒の実態

図4は、球技の技能に関する意識調査の結果である。ゴール前へのパスについて、うまくできないと答えた生徒が*人であった。さらに、走り込む動きについては、うまくできないと答えた生徒が*人であった。また、教師の観察から、ボール操作が未熟なためゴール前へのパスができない生徒や、相手に守られゴール前へ走り込む適切なコース取りができない生徒が見受けられた。このような実態から、ゴール前へのパスの仕方と走り込む動き方の理解や、ゴール前へのパスや走り込む動きの習得が課題であることが明らかとなった。

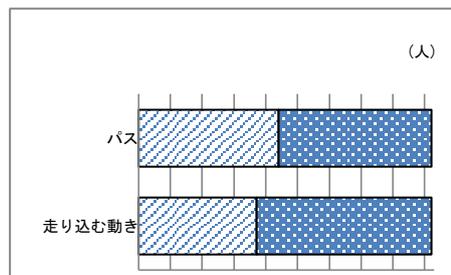


図4 球技に関する生徒の意識調査
(平成24.9.27実施 *****中学校第3学年*人)

イ 技能ポイント資料を活用した手立て

(ア) 技能ポイント場面シートの活用

資料1はパスや走り込む動きの課題を取り出した技能ポイント場面シートである。このシートは、場面を視覚的に捉えて理解させ課題を明確にする。シートにボールや人の動き、その理由を記入することにより場面をイメージして、シュートに結び付く選択肢を考え、効果的な動きを理解する。

資料1 技能ポイント場面シート (一部抜粋)



(イ) 自作ビデオを活用した技能ポイント練習

自作ビデオは、技能ポイントをより視覚的に捉えて視聴させ、技能ポイント場面シートの理解を補う。そうすることによって、技能ポイント練習では、知識やイメージを生かし、ゴール前へのパスや走り込む動きの効果的な習得を目指す。ここでは、生徒の実態に応じた場面を取り出して練習に取り組みせ、動きを身に付け、ゲームで活用できるようにする。

(ウ) チーム作戦ボードやペア分析カードを活用した技能ポイント評価

チーム作戦ボードやペア分析カードは、技能ポイントを視点として評価する。前半と後半の2組に分けた兄弟チームを作り、ゲームが無い時にペア分析カードを記録する。作戦タイムには、チーム作戦ボードを活用して、兄弟チームで互いに評価し合い、動きの改善につなげる。

資料2 技能ポイント振り返りカード (一部抜粋)

技能ポイント振り返りカード (回目) (月 日)	
年 組 男・女 番 名前 []	
1 自分の動きを振り返ろう (Aできた・Bだいたいできた・Cあまりできない・Dできない) ※ゲーム後に個人で記入する。	
課題1 パスによるチャンス	
① ゴール前でフリーになっている味方を見つけてパスができたか。	
② ゴール前に走り込む味方の動きにタイミングを合わせてパスができたか。	
課題2 走り込むチャンス	
③ ゴール前の空間に走り込むことができたか。	
④ ディフェンスの後方のゴール前に走り込むことができたか。	
⑤ 外に開いてボールとゴールを同時に見えるところに走り込むことができたか。	
⑥ パスを出した後すぐにパスをもらえる位置に走り込むことができたか。	
⑦ 味方がドリブルをはじめたときに進行方向から離れて空間をつくることができたか。	

(エ) 技能ポイント振り返りカードの活用

資料2は、技能ポイント場面シートと同じ視点でパスや走り込む動きの課題を示した技能ポイント振り返りカードである。このカードを活用し、技能ポイントの理解や技能の成果から次なる課題を明確にする。

(3) 授業実践

ア 単元の指導計画

(ア) 単元の目標

- ルールやマナー，フェアなプレイを守ることができるようにする。また練習やゲームの進行などで自己の責任を果たすことができるようにする。さらに，練習やゲームに自主的に取り組み，技能ポイントの評価や作戦などの話合いに貢献することができるようにする。（運動への関心・意欲・態度）
- 技能ポイントから自己や相手チームに応じた技能や作戦を選ぶことができるようにする。また，仲間に対して技能ポイントの課題や有効な解決方法を見付けることができるようにする。（運動についての思考・判断）
- 基本的なパスや走り込む動きができるようにする。また，技能ポイントの課題に応じてパスや走り込む動きができるようにする。（運動の技能）
- 球技の特性や練習，ゲームの進行などを理解して，例を挙げることができるようにする。また，技能ポイントを理解し，仲間と言ったり資料に書いたりして示すことができるようにする。（運動についての知識・理解）

(イ) 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
学習活動に即した評価規準	①ルールやマナー，フェアなプレイを◎常に守ろうとしている。 ②練習やゲームの進行などで自己の責任を◎常に果たそうとしている。 ③練習やゲームに自主的に取り組み，技能ポイントの評価や作戦などの話合いに◎常に貢献しようとしている。	①技能ポイントから自己や相手チームに応じた技能や作戦を◎的確に選んでいる。 ②仲間に対して技能ポイントの課題や有効な解決方法を◎的確に見付けている。	①基本的なパスや走り込む動きが◎安定してできる。 ②技能ポイントの課題に応じてパスや走り込む動きが◎安定してできる。	①球技の特性や練習，ゲームの進行などを理解して，◎具体的に例を挙げている。 ②技能ポイントを理解し，仲間と言ったり資料に書いたりして◎具体的に示している。

◎は十分に満足できる状況

(ウ) 単元計画（11時間）

時	1	2	3	4	5	6 (補)	7	8	9	10	11	
ねらい タイム	ゴール前へのパスや走り込む動きを理解してゲームに生かそう						作戦に応じたゴール前へのパスや走り込む動きをゲームで活用しよう					
8分	あいさつ，ねらいの確認											
8分	学習の道筋理解	準備運動・練習タイム					男子ゲーム（前半）					まとめのゲーム
8分		ミニゲーム（前半）					女子ゲーム（前半）					
5分		作戦タイム					作戦タイム					
8分		ミニゲーム（後半）					男子ゲーム（後半）					
8分		整理運動・振り返りタイム					女子ゲーム（後半）					
5分	教師の指導助言，あいさつ											
関・意・態	①	②					③					
思・判				①				②			②	
技能		①	①		②	②			②	②		
知・理	①			②		②	①					

イ 本時の指導

(ア) 本時のねらい

- 技能ポイントの課題に応じてパスや走り込む動きができる。
(運動の技能)
- 技能ポイントを理解し、仲間と言ったり資料に書いたりして示している。
(運動についての知識・理解)

(イ) 準備・資料

ミニゴール，ボール，ゼッケン，カラーコーン，技能ポイント資料

(ウ) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
はじめ 10分	1 整列，あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康観察を行う。 ・拡大した単元計画を示し説明する。 	
	2 本時のねらいを確認する。		
	ゴール前へのパスや走り込む動きを理解してゲームに生かそう		
	<ul style="list-style-type: none"> ・技能ポイント場面シートへの記入を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントの視点を明確につかませる。 	
なか 30分	3 準備運動をする。 ・グループごとに技能ポイントに関する基礎運動を行う。 4 技能ポイント練習を行う。 ・男女別に課題を取り出した練習を行う。 5 ミニゲームを行う。 ・前半を行う。 (後半のグループはペア分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・場や用具の安全に気を付ける。 ・技能ポイントに気付くように手本を示して説明する。 ・後半のグループにはペア分析の視点を明確にして取り組ませる。 ◇積極的でない生徒には，技能ポイントを伝え具体的な動きを指示する。 ・技能ポイントを視点到にチームやペアの評価ができるように助言する。 ・前半のグループには課題や作戦について仲間へのアドバイスを促す。 	<運動の技能②> ・技能ポイントの課題に応じてパスや走り込む動きができる。 (観察、ビデオ記録、ペア分析)
	<ルール> ◇ゴールキーパーはなし ◇タッチラインをボールが出たらキックイン ◇コーナーキックはあり ・技能ポイント評価を行う。 ◇パスの改善点は？ ◇走り込む動きの改善点は？ ◇ボールや相手の守り方は？ ・後半を行う。 (前半のグループはペア分析)		
まとめ 10分	6 整理運動をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康観察を行う。 ・活動時の生徒のよさを称賛し，コート図を活用して指導助言を行う。 	<知識・理解②> ・技能ポイントを理解し，仲間と言ったり資料に書いたりして示している。 (観察、シート、カード)
	7 本時の学習活動の反省と次時の課題を確認する。 ・技能ポイント振り返りカードへの記入を行う。 8 整列，あいさつをする。		

◇は努力を要する状況にある生徒への手立て

ウ 授業の記録

<抽出した生徒>

生徒A 体育の授業内容を理解し、運動の技能に優れている。

生徒B 体育の授業内容をよく理解しているが、運動の技能が定着していない。

生徒C 体育の授業内容が理解できず、運動の技能が身に付いていない。

時	学習の流れ	全体の様子	抽出した生徒の様子		
			生徒A	生徒B	生徒C
3	○準備運動の場面 ○技能ポイント練習の場面	・ボール操作は身に付いていないが、意欲的に活動している。	・ドリブルやターン、パスが落ち着いてスムーズにできている。	・技能ポイント練習で、中心となってパス出しをしている。	・トラッピングやターン、動いているボールのキックがうまくできないでいる。
	○ゲームの場面 ○技能ポイント評価の場面	・ ボールに集まってしまいう課題について改善点を見付けている。	・中心となってチーム作戦ボードを記入し、改善の声をかけている。	・パスを出す時に合図を送り、その後すぐにゴール前へ走り込んでいる。	・守りのポジションでプレイし、ボールを受ける時に慌てている。
6 (本時)	1 整列、あいさつをする。	・姿勢を意識して礼をしている。	・早くから並び仲間と話をしている。	・真面目な態度で列に並んでいる。	・自分の列に並び、静かにしている。
	2 本時のねらいの確認をする。 ・技能ポイント場面シートの記入を行う。	・ねらいを基に技能ポイント場面シートで動きを確認し、真剣に記入している。	・スムーズに場面シートに取り掛かり、細かなところまで記入している。	・場面シートの記入が早く、先生の助言を聞きながら時間内に終わる。	・活動は遅いが場面シートを理由まで記入している。
	3 準備運動をする。 ・グループごとに基礎運動を行う。	・二人組でパスやトラッピング、ドリブルなどの技術を確かめ合う。	・スピードに乗ってドリブルし、相手をよく見てパスをしている。	・ペアの仲間に手を挙げて「いくよ」と合図を送りパスをしている。	・ボールを止めることが難しそうである。
	4 技能ポイント練習を行う。 ・男女別に課題練習を行う。	・課題を取り出したゴール前へのパスや走り込む動きを意欲的に練習している。	・パスを出す待ち時間に、ボールを転がして慣れようとしている。	・教師の「足の裏で止めるといいよ」の指示を受け、しっかりと練習している。	・練習の流れを理解して、パスや走り込む動きでシュートをしている。
	5 ミニゲームを行う。 (1)前半を行う。 (後半のグループはペア分析)	・練習したパスや走り込む動きをゲームに生かす。(ペア分析カードを書きながら仲間にアドバイスをする。)	・相手チームや仲間のポジションをよく見てボールを出している。	・前方に走り込み、丁寧にボールを止めたり、味方に合図を送りパスを出したりしている。	(ペアの動きをよく見ているが、ペア分析カードになかなか記入できない。)
	(2)技能ポイント評価を行う。	・ペアやグループで動きを評価し合い、改善点を確認している。	・後半に出る人を指示し、人数合わせで後半も出場することになる。	・チームの輪の中で、教師のアドバイスをしっかりと聞いている。	・グループの意見をわきで静かに聞いている。
	(3)後半を行う。 (前半のグループはペア分析)	・評価して出された改善の動きをゲームで活用する。(ペアの課題やチームの作戦について仲間に声をかける。)	・ボールに向かう反応が速く頻繁に周りを見てマークの指示をしている。	(チームに声をかけ、ペアの動きを見ながら分析カードを記入している。)	・リーダーの指示でマークに付いたり、パスを受けボールを運んだりしている。
6 本時の反省と次時の課題を確認する。 ・技能ポイント振り返りカードの記入を行う。	・ねらいを踏まえ、振り返りカードで反省し、次時の課題を見付けている。	・振り返りカードを素早く記入し、チームに声をかけ、回収している。	・振り返りカードの記入にすぐに取り掛かり、時間いっぱい書いている。	・振り返りカードに記入したがCが多い。	
7 整列、あいさつをする。	・正しい姿勢を意識して礼をしている。	・よい姿勢で礼をしている。	・真面目な表情で礼をしている。	・落ち着いた態度で礼をしている。	
8	○ゲームの場面 	・コートを広く使い、バランスよく散らばってプレイしている。	・守備の中心となり、コート全体を見渡し、予測してプレイしている。 ・ボールがコートの外に出た時は、常に最初に蹴り入れている。	・ボールから離れて待つ動きやゴール前へ走る動きができていない。 ・落ち着いてボールを止めてゴール前の空間にパスを出している。	・球際で相手と激しくプレイしながらボールを奪う。 ・攻撃エリアでボールをもらうようになり、ゴール前へパスを送りゴールに貢献している。
	○技能ポイント振り返りカードの記入場面	・分かったことやできたことを明確にして次の課題を見付けている。	・できた動きと課題をしっかりと見極めて、振り返りカードに記入している。	・「できるようになったことが増えた」と振り返りカードに記入している。	・これまでCが多かった振り返りカードに、すべてBの評価を記入している。

ゴシック文字は、技能ポイント資料の活用を通して、主体的に運動の知識や技能を習得する場面である。

(4) 授業の分析と考察

ア 技能ポイント資料の活用について

(ア) 技能ポイント場面シートの活用について

資料3はパスや走り込む動きを記入した技能ポイント場面シートである。場面をイメージして、根拠を基に記入し、正確に理解していることが分かる。シートの記入から、一人一人の理解の実態が明らかとなり個に応じたアドバイスができた。図5は、第2時と第8時を比べたパスや走り込む動きの理解の実態である。第8時には、78人の生徒がゴール前へのパスの仕方を理解できた。また、77人の生徒が走り込む動きを理解できた。技能ポイント場面シートを活用したことで、ゴール前へのパスや走り込む動きを効果的に理解できたと考える。

(イ) 自作ビデオを活用した技能ポイント練習について

ゲームでは、ゴール前へ走り込んでパスを受ける声掛けやジェスチャーが増えた。また、走り込む動きが増えたことでパスが出しやすくなり、連続した攻撃ができた。図6は、パスや走り込む動きの出現回数を記録したペア分析カードの結果である。第2時にはパスや走り込む動きの総数が275回であったが、第6時には636回に向上した。技能ポイント練習は、ゴール前へのパスや走り込む動きを実践的に身に付け、ゲームで活用できたと考える。

(ウ) チーム作戦ボードやペア分析カードを活用した技能ポイント評価について

資料4は、パスや走り込む動きを評価したチーム作戦ボードである。ボードから動きの改善点を見付け、「ボールから離れ、敵の動きをよく見て走ろう」などの記入から作戦を立てていることが分かる。また、ペア分析カードには、動きを記録しながらアドバイスや励ましを記入していた。さらに、ゲームではポジション取りのアドバイスもするようになった。仲間と動きの理解を深め合い、動きをゲームでの活用や改善につなげることができたと考える。

資料3 技能ポイント場面シート（一部抜粋）

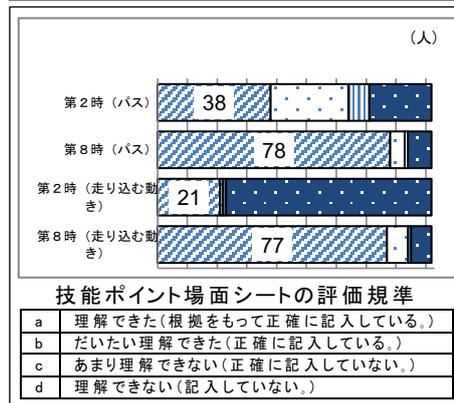


図5 技能ポイント場面シートの理解
(平成24.10.23, 11.8実施 **** 中学校第3学年*人)

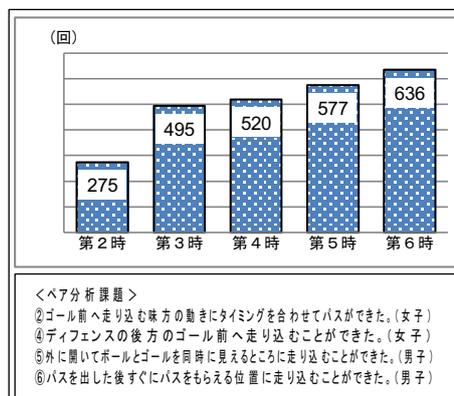
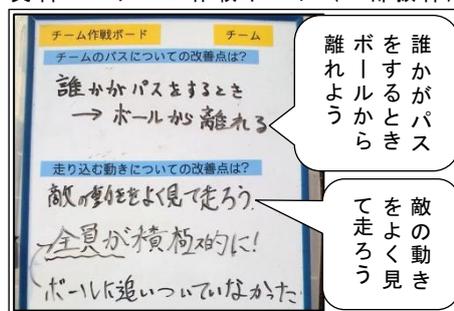


図6 ゲームでのパスや走り込む動きの出現回数
(平成24.10.23~11.1実施 **** 中学校第3学年*人)

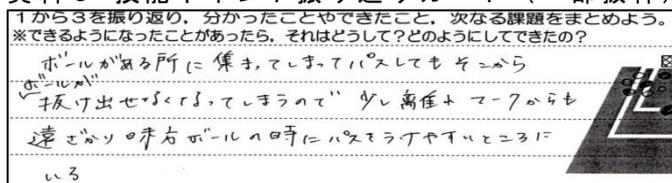
資料4 チーム作戦ボード（一部抜粋）



(エ) 技能ポイント振り返りカードの活用について

資料5は、技能ポイント振り返りカードの記述である。効果的な動きを理解して、実践に生かし、次なる課題を見付けていることが分かる。図

資料5 技能ポイント振り返りカード（一部抜粋）



7は、技能ポイントに関する意識調査の結果である。事後の調査では、ゴール前へのパスについて、70人の生徒ができたと言った。また、走り込む動きについても77人の生徒ができたと言った。技能ポイント振り返りカードの活用を通して、技能ポイントの理解や技能の成果を確かめ、次なる課題を明確にすることで、次時の活動につなげることができたと考える。

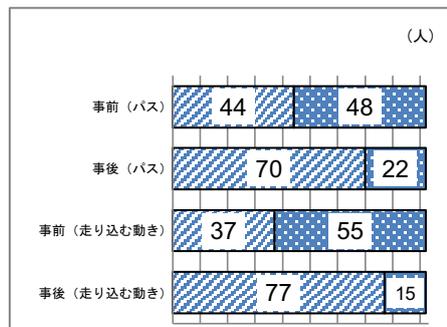


図7 技能ポイントに関する意識調査 (平成24.9.27, 11.8実施 *****)中学校第3学年*(人)

イ 学年全体の変容

(ア) 形成的授業評価から

図8は、体育授業評価として定着している高橋健夫氏提唱「形成的授業評価」の結果である。この評価は、成果についての3項目で質問し、「はい」に3点、「どちらでもない」に2点、「いいえ」に1点を与えて平均点を算出した。第2時では、次元の評価が5段階評価の2であったが、第8時には、次元の評価が4となり向上した。技能ポイント資料の活用を通して、ゴール前へのパスや走り込む動きを理解し、ゲームでの活用につなげることができたと考える。



図8 単元過程における形成的授業評価の推移 (平成24.10.23~11.8実施 *****)中学校第3学年*(人)

(イ) 診断的・総括的授業評価から

図9は、高橋健夫氏提唱「診断的・総括的授業評価」の結果である。この評価は、「できる」(運動目標)についての5項目で質問し、「はい」に3点、「どちらでもない」に2点、「いいえ」に1点を与えて、合計点を算出した。単元前の評価に比べ、男女共に向上が見られ、特に女子は0からプラスの評価となった。項目別では、「2. できる自信」の質問で大幅に伸びが見られた。技能ポイント資料の活用を通して、パスや走り込む動きを理解して、繰り返し練習していく中で、できるようになったことで自信を持ち、動きを身に付け、ゲームでの活用につなげることができたと考える。

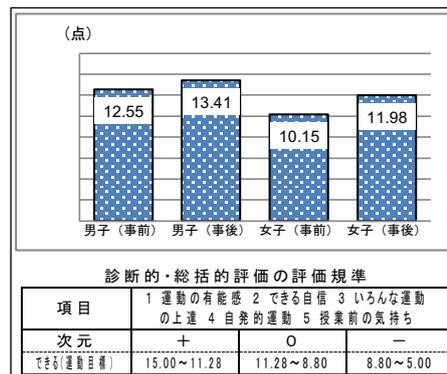


図9 単元前後における診断的・総括的評価の比較 (平成24.10.18, 11.8実施 *****)中学校第3学年*(人)

ウ 抽出した生徒の変容

図10は、抽出した生徒の走り込む動きについて、技能ポイント場面シートとペア分析カードの結果である。生徒Aは、走り込む動きを正確に理解できた第6時で、走り込む仲間の動きをよく見てパスを出すようになり、作戦タイムに仲間にアドバイスをする姿が見られた。生徒Bは、走り込む動きの理解を深めた第6時で、ゴール前への走り込む動きが飛躍的に向上し、チャンスに絡む場面が見られた。生徒Cには、技能ポイントを伝え、具体的な動きを指示することにより、走り込む動きが理解できた第6時で、空間に走り込むコース取りがよくなり、ボールを受けて得点に貢献するパスが見られた。

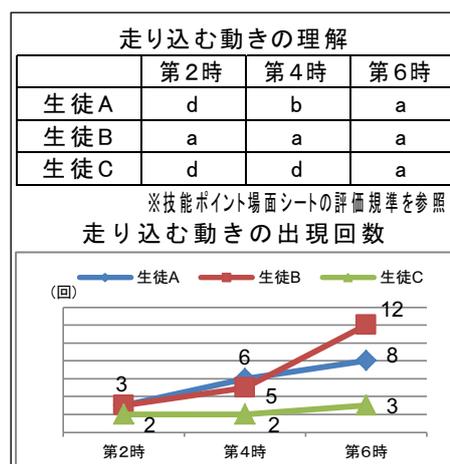


図10 技能ポイント場面シートとペア分析カードの結果
(平成24.10.23~11.1実施 **** *中学校第3学年*人)

5 研究のまとめ

中学校第3学年「サッカー」におけるゴール前へのパスや走り込む動きを示した技能ポイント資料の活用を通して、運動の知識や技能の習得を図る保健体育科学習指導の在り方を追究した結果、次のようなことが明らかとなった。

- (1) 技能ポイント場面シートの活用については、ゴール前へのパスや走り込む動きを分かりやすく理解し、知識の習得を図るのに有効であった。
- (2) 自作ビデオを活用した技能ポイント練習については、実践的な練習で動きを身に付け、ゲームで活用することで技能の習得を図るのに有効であった。
- (3) チーム作戦ボードやペア分析カードを活用した技能ポイント評価については、仲間との動きの理解を深め、ゲームでの改善につなげることで、知識や技能を改善し、習得を図るのに有効であった。
- (4) 技能ポイント振り返りカードの活用については、学習内容を振り返り、次時の課題を明確にして学習を進めることで、知識や技能の習得を図るのに有効であった。

6 今後の課題

- (1) 運動の知識や技能に関する実態を把握し、技能ポイントの課題を明確にした学習資料を改善していきたい。
- (2) 運動の知識を視覚的に捉えて理解し、技能の習得に効果的に生かす学習過程を改善していきたい。

〈引用文献〉

文部科学省 「中学校学習指導要領解説保健体育科編」 平成20年9月

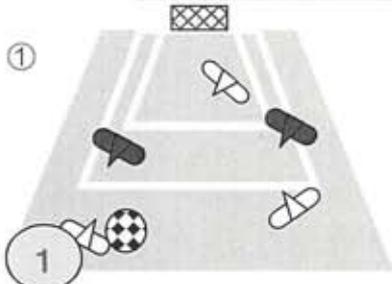
〈参考文献〉

高橋健夫編著 「体育授業を観察評価する」 明和出版 平成23年10月

技能ポイント場面シート(回目)(月 日)

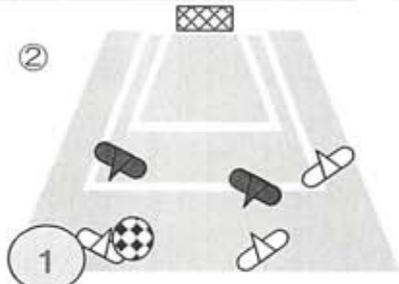
年 組 男・女 番 名前「 」

課題1 あなたは青1だとします。次の場合、どのようなパスを送りチャンスをつくりませんか？また、その理由を空欄に書きましょう。 ※ゲーム前に個人で記入する。



①

理由は・・・



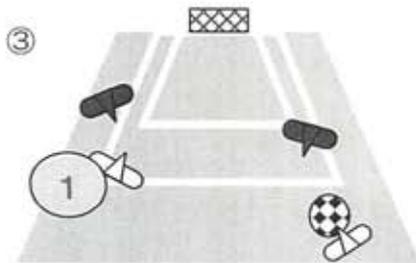
②

理由は・・・

ボールの動き —————→

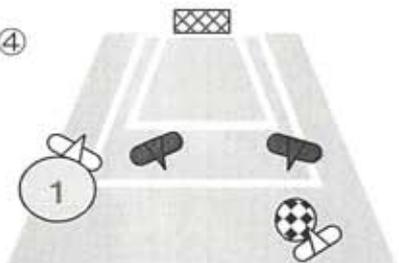
人の動き - - - - ->

課題2 あなたは青1だとします。次の場合、どのように走り込みチャンスをつくりませんか？また、その理由を空欄に書きましょう。 ※ゲーム前に個人で記入する。



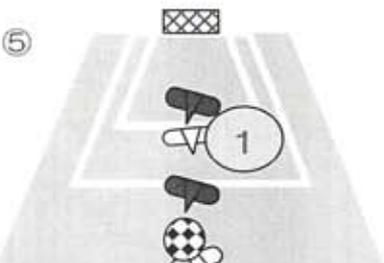
③

理由は・・・



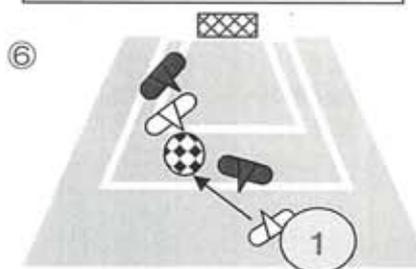
④

理由は・・・



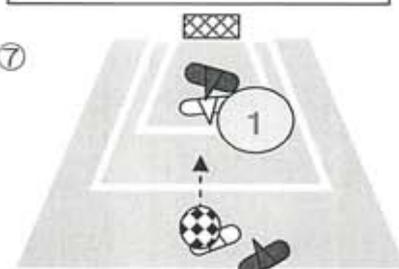
⑤

理由は・・・



⑥

理由は・・・



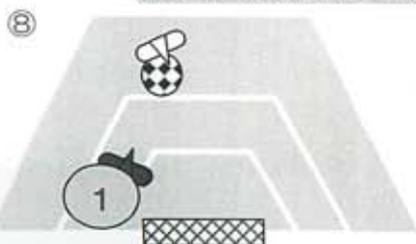
⑦

理由は・・・

ボールの動き —————→

人の動き - - - - ->

課題3 あなたは赤1だとします。次の場合、どのように相手やゴールを守りますか？また、その理由を空欄に書きましょう。 ※ゲーム前に個人で記入する。



⑧

理由は・・・



⑨

理由は・・・



⑩

理由は・・・

技能ポイント振り返りカード (回目) (月 日)

年 組 男・女 番 名前 []

1 自分の動きを振り返ろう (Aできた・Bだいたいできた・Cあまりできない・Dできない) ※ゲーム後に個人で記入する。

課題1 パスによるチャンス

①	ゴール前でフリーになっている味方を見つけてパスができたか。	
②	ゴール前に走り込む味方の動きにタイミングを合わせてパスができたか。	

課題2 走り込むチャンス

③	ゴール前の空間に走り込むことができたか。	
④	ディフェンスの後方のゴール前に走り込むことができたか。	
⑤	外に開いてボールとゴールを同時に見えるところに走り込むことができたか。	
⑥	パスを出した後すぐにパスをもらえる位置に走り込むことができたか。	
⑦	味方がドリブルをはじめたときに進行方向から離れて空間をつくることができたか。	

課題3 相手やゴールの守り

⑧	マークする相手とゴールの間に入り間合いをつめて守ることができたか。	
⑨	マークする相手とボールが見える位置で守ることができたか。	
⑩	ボールをもつ相手をマークする味方をカバーできる位置をとることができたか。	

2 今日の授業を振り返ろう (3はい・2どちらでもない・1いいえ) ※ゲーム後に個人で記入する。

1	深く心に残ることや、感動することがあったか。	
2	今までできなかったこと (運動や作戦) ができるようになったか。	
3	「あっ、分かった!」とか「あっ、そうか」と思ったことがあったか。	

1 から 3 を振り返り、分かったことやできたこと、次なる課題をまとめよう。

※できるようになったことがあったら、それはどうして?どのようにしてできたの?

